

麻酔科専門医研修プログラム名	福岡徳洲会病院麻酔科専門医研修プログラム	
連絡先	TEL	092-573-6622
	FAX	092-573-1733
	e-mail	edu@csf.ne.jp
	担当者名	土肥 啓次郎
プログラム責任者 氏名	海江田 令次	
研修プログラム 病院群 *病院群に所属する全施設名をご記入ください。	責任基幹施設	医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院
	基幹研修施設	——
	関連研修施設	湘南鎌倉総合病院 宇治徳洲会病院 佐久総合病院 佐久医療センター 松原徳洲会病院 大隅鹿屋病院
定員	2 人	
プログラムの概要と特徴	福岡徳洲会病院は、年間 10,000 件を超える救急車を受け入れており、緊急手術症例を数多く経験できる。ペインクリニック、集中治療を加え麻酔科医としてキャリアスタートに絶好の研修プログラム。関連研修施設での研修も加え、実践的な麻酔科専門医を育成する。	
プログラムの運営方針	責任基幹施設での研修を主体とするが、経験目標の達成と偏らない経験のために関連研修施設での研修を行う。本研修プログラムは福岡徳洲会病院 臨床研修センターで管理し、病院内および外部委員からなる臨床研修センター管理委員会の監査をうける。	

2016年度福岡徳洲会病院麻酔科専門医研修プログラム

1. プログラムの概要と特徴

責任基幹施設である福岡徳洲会病院は、年間10,000件を超える救急車を受け入れており、脳神経外科、心臓血管外科、緊急帝王切開術を含めた様々な手術症例を数多く経験できる。ペインクリニック、集中治療を含めた麻酔科医としてキャリアスタートに絶好の研修プログラムである。

関連研修施設である佐久総合病院は地域医療のメッカとして有名であり、豊富な症例が経験できる。専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

2. プログラムの運営方針

- a) 研修の前半2年間は責任基幹施設で研修を行う。後半2年間のうち6ヶ月は責任基幹施設で研修を行う。
- b) 関連研修施設、湘南鎌倉総合病院、宇治徳洲会病院、佐久総合病院 佐久医療センター、松原徳洲会病院、大隅鹿屋病院での研修を行う場合、最短3ヶ月の期間とする。
- c) 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属するすべての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。

3. 研修施設の指導体制

1) 責任基幹施設

医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院（以下、福岡徳洲会病院）

プログラム責任者：海江田令次

指導医： 上田聡子

大下修造

専門医： 向江美智子

柴田久子

2) 基幹研修施設

なし

3) 関連研修施設

3-1) 医療法人沖繩徳洲会 湘南鎌倉総合病院（以下、湘南鎌倉病院）

研修実施責任者： 小出 康弘

指導医： 小田 利通

野見山 延

豊田 浩作

加古 英介

専門医： 迫田 厚志

渡辺 桂

石川 亜希子

福井 公哉

石橋 美智子

相野田 桂子

小澤 寛子

本プログラムにおける前年度症例合計

	本プログラム分症例数
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

3-2) 医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院（以下、宇治病院）

研修実施責任者： 鬼頭 秀樹

指導医： 辻川 洋

専門医： 竹田 智浩

村川 和重

本プログラムにおける前年度症例合計

	本プログラム分症例数
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

3-3) JA長野厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター（以下、佐久病院）

研修実施責任者： 萩原 一昭

指導医： 清水 賢一

専門医： 佐々木純子

本プログラムにおける前年度症例合計

	本プログラム分症例数
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

3-4) 医療法人徳洲会 松原徳洲会病院（以下、松原病院）

研修実施責任者： 平田 隆彦

専門医： 槇 誠俊

本プログラムにおける前年度症例合計

	本プログラム分症例数
小児（6歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔	20 症例

(胸部大動脈手術を含む)	
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

3-5) 社会医療法人鹿児島愛心会 大隅鹿屋病院 (以下, 大隅鹿屋病院)

研修実施責任者: 井上 敏

指導医: 槐島 愛子

専門医: 須田 陽子

本プログラムにおける前年度症例合計

	本プログラム分症例数
小児 (6歳未満) の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0 症例
胸部外科手術の麻酔	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

本プログラムにおける前年度症例合計

	本プログラム分症例数
小児 (6歳未満) の麻酔	75 症例
帝王切開術の麻酔	100 症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	120 症例
胸部外科手術の麻酔	55 症例
脳神経外科手術の麻酔	100 症例

4. 本プログラムの研修カリキュラム到達目標

①一般目標

質の高い安全な医療を常に目標とし実践する麻酔科専門医を育成する。麻酔科および麻酔関連領域のみならず、医療安全をより高めるため、教育と研究に積極的に参加する。

専門医研修プログラムでは、以下の5つの資質を習得することを目標とする。

- 1) 麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 医療現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療上での適切な態度、習慣
- 4) 良い診療を常に実践するための自身の健康管理と適切な生活習慣
- 5) 常に進歩する医療・医学に関心を持ち、生涯を通して研鑽する向上心

②個別目標

目標1 基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1) 総論：

- a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している。
- b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる。

2) 生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。

- a) 自律神経系
- b) 中枢神経系
- c) 神経筋接合部
- d) 呼吸
- e) 循環
- f) 肝臓
- g) 腎臓
- h) 酸塩基平衡，電解質

i) 栄養

3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している．特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している．

- a) 吸入麻酔薬
- b) 静脈麻酔薬
- c) オピオイド
- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬

4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

- a) 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解し，麻酔計画ができる．
- b) 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．
- c) 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，ガイドラインの実践ができる．
- d) 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し実践できる．
- e) 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
- f) 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，安全に施行できる．
- g)

5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．

- a) 腹部外科
- b) 腹腔鏡下手術
- c) 胸部外科
- d) 成人心臓手術
- e) 血管外科
- f) 小児外科
- g) 高齢者の手術
- h) 脳神経外科

- i) 整形外科
- j) 外傷患者
- k) 泌尿器科
- l) 産婦人科
- m) 眼科
- n) 耳鼻咽喉科
- o) レーザー手術
- p) 口腔外科
- q) 臓器移植
- r) 手術室以外での麻酔

6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．術後の疼痛管理ができる。

7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

8) 救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる．それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる．AHA-ACLS，またはAHA-PALSプロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している．

9) ペインクリニック：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる．

- a) 急性痛 術後疼痛の評価と術後鎮痛管理ができる。
- b) 慢性痛 侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛について理解し、治療を実践できる。

目標2 診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

- a) 血管確保・血液採取
- b) 気道管理
- c) モニタリング
- d) 治療手技

- e) 心肺蘇生法
- f) 麻酔器点検および使用
- g) 脊髄くも膜下麻酔
- h) 鎮痛法および鎮静薬
- i) 感染予防

目標3 マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命を助けることができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 医療倫理, 医療安全

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともにon the job training 環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5 生涯教育

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。

- 4) 臨床上の疑問に関して、指導医に尋ねることはもとより、自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③経験目標

研修期間中、基幹病院で1年間に300から400例（過去の実績）の手術麻酔を経験でき、4年間の研修期間中1000例を目標とする。単一施設での経験では、地域や病院の機能による偏りができる恐れがあるため、関連研修施設での研修を推進し経験を積む。特殊症例、特に胸部外科麻酔について経験症例数が不足する場合は、これを関連研修施設で加える。集中治療、ペインクリニックについては、後半2年間の間にそれぞれ最低3ヶ月の研修期間をもうけ臨床経験を積む。

7. 各施設における到達目標と評価項目

各施設における研修カリキュラムに沿って、各参加施設において、それぞれの専攻医に対し年次毎の指導を行い、その結果を別表の到達目標評価表を用いて到達目標の達成度を評価する。又、それぞれの研修施設の特色を生かした研修とし、総合的な目標達成となる良い、また評価が不均衡にならないように留意する。

福岡徳洲会病院 研修カリキュラム到達目標

・施設の特徴

責任基幹施設である福岡徳洲会病院は、年間10,000件を超える救急車を受け入れている。頭部外傷や脳血管障害にたいする脳神経外科、急性大動脈解離などの心臓血管外科、腹部救急や外傷に対する手術のほか、緊急帝王切開術など様々な手術症例を数多く経験できる。救急医療のほかペインクリニック、集中治療の研修も可能であり、麻酔科医として幅広い経験をできる施設である。

2つの大学病院をもつ福岡市の南に接し、講演会や研修会などへの参加も容易な立地にある。学会発表や出張の補助だけでなく、院内保育所、病児保育などの利用も可能であり、専攻医の生活にも配慮している。

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。麻酔科専門医資格の獲得を目標とする。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1 (基本知識)

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

- 1) 総論：
 - a) 麻酔科医の役割と社会的な意義、医学や麻酔の歴史について理解している。
 - b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率、リスクの種類、安全指針、医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理、感染対策、環境整備について理解し、実践できる。
- 2) 生理学：下記の臓器の生理・病態生理、機能、評価・検査、麻酔の影響などについて

て理解している.

- a) 自律神経系
- b) 中枢神経系
- c) 神経筋接合部
- d) 呼吸
- e) 循環
- f) 肝臓
- g) 腎臓
- h) 酸塩基平衡, 電解質
- i) 栄養

3) 薬理学: 薬力学, 薬物動態を理解している. 特に下記の麻酔関連薬物について作用機序, 代謝, 臨床上の効用と影響について理解している.

- a) 吸入麻酔薬
- b) 静脈麻酔薬
- c) オピオイド
- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬

4) 麻酔管理総論: 麻酔に必要な知識を持ち, 実践できる

- a) 術前評価: 麻酔のリスクを増す患者因子の評価, 術前に必要な検査, 術前に行うべき合併症対策について理解している.
- b) 麻酔器, モニター: 麻酔器・麻酔回路の構造, 点検方法, トラブルシューティング, モニター機器の原理, 適応, モニターによる生体機能の評価, について理解し, 実践ができる.
- c) 気道管理: 気道の解剖, 評価, 様々な気道管理の方法, 困難症例への対応などを理解し, 実践できる.
- d) 輸液・輸血療法: 種類, 適応, 保存, 合併症, 緊急時対応などについて理解し, 実践ができる.
- e) 硬膜外麻酔: 適応, 禁忌, 関連する部所の解剖, 手順, 作用機序, 合併症について理解し, 実践ができる
- f) 神経ブロック: 適応, 禁忌, 関連する部所の解剖, 手順, 作用機序, 合併症について理解し, 実践ができる.

5) 麻酔管理各論: 下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について, それぞれの特性と留意すべきことを理解し, 実践ができる.

- a) 腹部外科
- b) 腹腔鏡下手術
- c) 胸部外科
- d) 心臓血管外科
- e) 脳神経外科
- f) 整形外科
- g) 形成外科
- h) 産科手術
- i) 外傷患者
- j) 泌尿器科
- k) 眼科
- l) 耳鼻咽喉科
- m) レーザー手術
- n) 口腔外科
- o) 手術室以外での麻酔

6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。

7) 集中治療：小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる。

目標 2（診療技術）

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している。

- a) 血管確保・血液採取
- b) 気道管理
- c) モニタリング
- d) 治療手技
- e) 心肺蘇生法
- f) 麻酔器点検および使用
- g) 脊髄くも膜下麻酔

- h) 鎮痛法および鎮静薬
- i) 感染予防

目標3 (マネジメント)

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命を助けることができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 (医療倫理, 医療安全)

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5 (生涯教育)

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③ 経験目標

1) 手術麻酔

経験目標数： 手術麻酔管理数は4年間の研修期間中1000例を目標とする。

心臓血管外科、脳神経外科、帝王切開術の麻酔管理についてはそれぞれ100例以上とする。胸部外科手術25例以上の経験を得るため関連研修施設で研修を行う。

- a) 各種気道確保の道具に精通し、症例に応じた適切な気道管理ができる。
- b) 換気困難、挿管困難症例に対して困難気道アルゴリズムに従った管理ができる。
- c) 脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔が安全確実に施行できる。
- d) モニタリングの意義を理解し、生体機能を把握した上での、麻酔薬、筋弛緩薬の投与、呼吸循環管理ができる。
- e) 経食道心エコーの操作を行い、心臓および胸腔内の解剖を理解する。左室壁運動の観察、左室駆出率の算出ができる。
- f) 超音波エコー図のガイド操作により、カテーテル留置、神経ブロックができる。
- g) 術後患者管理に携わり術後合併症の発生を理解し、合併症への対応を行う。また術後合併症発生予防を心がけた麻酔管理の実践

2) ペインクリニック

ペインクリニックについては後半の2年間のうち最低3ヶ月研修を行う。研修はペインクリニック外来にて指導医とともに外来診療および入院診療を主治医として行う。

- 1) 急性痛（術後痛）に対して術後疼痛管理を行う。
- 2) 慢性痛を起こす疾患を理解し、適切な対応ができる。
- 3) 三叉神経ブロック、腰部交感神経節ブロックの適応を理解し、手技を学ぶ。
- 4) 脊髄刺激療法について理解する。

3) 集中治療

集中治療については、研修後半の2年間のうち、最低3ヶ月の研修を、当院集中治療部において施行する。指導は集中治療専門医が担当する。

重症患者の人工呼吸管理、血液浄化療法、栄養管理について理解し実践できる。重症敗血症、多発外傷、熱傷患者の病態を理解し治療を実践する。

3) 救急医療

研修初年度は、救急外来（ER）での当直勤務への参加が可能である。救急部では、救

急患者の初期治療を担当するほか、初期研修医への診療および治療の指導を行う。

当院は救急患者が多く来院するため、緊急手術も多い。来院から切れ目のない術前管理によって、良いアウトカムを考えた麻酔管理を行う。

4年間の手術麻酔症例数の目標を以下に示す。特殊麻酔に関しては、最低の目標経験数を示す。

年次	手術麻酔	特殊麻酔				
		小児	帝王切開	心臓外科	胸部	脳外科
1	300	10	10			25
2	300	10		25	5	
3	200	10			25	
4	200					
合計	1000	25以上	10以上	25以上	25以上	25以上

ペインクリニックおよび集中治療に関しては、3年次および4年次で最低3ヶ月以上、指導医とともに診療に参加する。

湘南鎌倉総合病院（関連研修施設）研修カリキュラム到達目標

・施設の特徴

徳洲会グループ内の基幹病院であり、急性期病院として先進的な取り組みをしている。JCIの認定を受けた数少ない病院であり、医療安全など病院の運営の国際スタンダードを実際に経験する。

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し、国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1（基本知識）

公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1) 総論：

麻酔科医の役割と社会的な意義、医学や麻酔の歴史について理解している。

麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率、リスクの種類、安全指針、医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理、感染対策、環境整備について理解し、実践できる。JCIの基本的考えを理解し、JCIで薦める医療のプロセスを理解する。

2) 生理学：各臓器の生理・病態生理、機能、評価・検査、麻酔の影響などについて理解している。

3) 薬理学：薬力学、薬物動態を理解している。麻酔薬および麻酔関連薬物について作用機序、代謝、臨床上の効用と影響について理解している。

4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち、実践できる

a) 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価、術前に必要な検査、術前に行うべき合併症対策について理解している。

- b) 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．
 - c) 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．
 - d) 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．
 - e) 硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
 - f) 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．
- 5) 麻酔管理各論：様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．
- p) 腹部外科
 - q) 腹腔鏡下手術
 - r) 胸部外科
 - s) 心臓血管外科
 - t) 外傷患者
 - u) 泌尿器科
 - v) 眼科
 - w) 耳鼻咽喉科
 - x) レーザー手術
 - y) 口腔外科
 - z) 手術室以外での麻酔

目標 2（診療技術）

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

- j) 血管確保・血液採取
- k) 気道管理 分離肺換気を含める

- l) モニタリング
- m) 治療手技
- n) 心肺蘇生法
- o) 麻酔器点検および使用
- p) 脊髄くも膜下麻酔
- q) 鎮痛法および鎮静薬
- r) 感染予防

目標3 (マネジメント)

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命を助けることができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 (医療倫理, 医療安全)

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5 (生涯教育)

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し,

積極的に討論に参加できる。

- 3) 学術集会や学術出版物に、症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して、指導医に尋ねることはもとより、自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療，周術期疼痛管理の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特種麻酔を担当医として経験する。

- ・胸部外科手術の麻酔 10 症例

ただし、胸部外科手術に関しては一症例の担当医は一人とする。

以上

宇治徳洲会病院（関連研修施設）研修カリキュラム到達目標

・施設の特徴

徳洲会グループ内の基幹病院であり、救命救急センターを設置している。また、ペインクリニック学会の会長経験のある指導医も勤務されており、ペインクリニックの研修も可能である。

① 一般目標

種々の病態変化を生じる周術期医療において、安全で質の高い患者管理が行える知識と技術を習得することを目指す。手術麻酔のみならず、集中治療、ペインクリニックなども集学的に学ぶことにより、患者中心の医療が実践できる専門医を育成する。

② 個別目標

目標 1（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1) 総論：

麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，感染対策，環境整備について理解し，実践できる。外来診療（ペインクリニック）の基本的考えを理解する。

2) 生理学：各臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。特に，急性および慢性痛の生理について理解する。

3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している。

- a) 吸入麻酔薬
- b) 静脈麻酔薬
- c) オピオイド
- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬

4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

- 1. 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している。
- 2. 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について

理解し、実践ができる。

3. 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる。
 4. 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる。
 5. 硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
 6. 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる。
- 5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる。
- a) 腹部外科
 - b) 腹腔鏡下手術
 - c) 胸部外科
 - d) 心臓血管外科
 - e) 外傷患者
 - f) 泌尿器科
 - g) 眼科
 - h) 耳鼻咽喉科
 - i) レーザー手術
 - j) 口腔外科
 - k) 手術室以外での麻酔

目標 2（診療技術）

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

- 1) 基本手技ガイドラインにあるそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している。

ペインクリニックで頻繁におこなうブロックを安全に施行できる。

目標 3（マネジメント）

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けること

ができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標 4 (医療倫理, 医療安全)

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標 5 (生涯教育)

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに参加し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③ 経験目標

福岡徳洲会病院麻酔科専門医研修プログラムのうち、責任基幹施設で症例数の不足が予想される胸部外科手術の経験を十分に積むことを目標とする。

- ・小児（6歳未満）の麻酔 — 症例
- ・帝王切開術の麻酔 — 症例
- ・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む） — 症例
- ・胸部外科手術の麻酔 10 症例
- ・脳神経外科手術の麻酔 — 症例

宇治徳洲会病院研修期間中は、胸部外科手術以外の症例についても担当し、指導を受けるものとする。

佐久総合病院（関連研修施設）研修カリキュラム到達目標

・施設の特徴

佐久総合病院は地域医療のメッカとして有名であり、北部九州とは違う地域の特色がある。

小児外科、胸部外科、心臓外科症例も多く、基幹病院以外での経験を積める。

① 一般目標

種々の病態変化を生じる周術期医療において、安全で質の高い患者管理が行える知識と技術を習得することを目指す。手術麻酔のみならず、集中治療、ペインクリニックなども集学的に学ぶことにより、患者中心の医療が実践できる専門医を育成する。

② 個別目標

目標 1（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1) 総論：

麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している。

麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，感染対策，環境整備について理解し実践できる。病院の地域医療への取り組みを理解する。

2) 生理学：各臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。

3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。特に麻酔薬および麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している。

4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

1. 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している。

2. 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる。

3. 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる。

4. 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる。

5. 硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
 6. 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる。
- 5) 麻酔管理各論： 下記の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる。
- a) 胸部外科
 - b) 心臓血管外科
 - c) 小児外科

目標 2（診療技術）

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

1) 基本手技ガイドラインにあるそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

目標 3（マネジメント）

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる．

1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている．

2) 医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる．

目標 4（医療倫理，医療安全）

医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．

1) 指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．

2) 他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．

3) 麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかり

やすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。

4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5（生涯教育）

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。

2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。

3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。

4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③ 経験目標

福岡徳洲会病院麻酔科専門医研修プログラムのうち、責任基幹施設で診療科のない小児外科、および症例数の少ない胸部外科手術の経験を十分に積むことを目標とする。

・小児（6歳未満）の麻酔	10 症例
・胸部外科手術の麻酔	25 症例

地域および経営母体の異なる病院での、患者およびスタッフとのコミュニケーションを通じ、コミュニケーション能力をたかめる。

佐久総合病院研修期間中は、小児外科、胸部外科手術以外の症例についても担当し、経験を増やすものとする。

松原徳洲会病院（関連研修施設）研修カリキュラム到達目標

・施設の特徴

徳洲会グループの原点となった病院であり、日帰り手術および心臓血管外科手術を経験できる。

① 一般目標

種々の病態変化を生じる周術期医療において、安全で質の高い患者管理が行える知識と技術を習得することを目指す。手術麻酔のみならず、集中治療、ペインクリニックなども集学的に学ぶことにより、患者中心の医療が実践できる専門医を育成する。

② 個別目標

目標1（基本知識） 麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1) 総論：

- a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している。
- a) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる。

2) 生理学：各臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。

3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している。

- a) 吸入麻酔薬
- b) 静脈麻酔薬
- c) オピオイド
- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬

4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

1. 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している。
2. 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる。

3. 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．
 4. 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．
 5. 硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
 6. 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．
- 5) 麻酔管理各論：様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し実践ができる．特に日帰り手術、短期入院手術の管理について理解する。
- 6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる．術後帰宅させる患者の評価と鎮痛対策を理解する。
- 7) 集中治療：小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる．

目標 2（診療技術）

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する．

- 1) 基本手技ガイドラインにある下記それぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している．

血管確保・血液採取

- a) 気道管理
- b) モニタリング
- c) 治療手技
- d) 心肺蘇生法
- e) 麻酔器点検および使用
- f) 脊髄くも膜下麻酔
- g) 鎮痛法および鎮静薬
- h) 感染予防

目標 3（マネジメント）

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命を助けることができる。

1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。

2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標 4 (医療倫理, 医療安全)

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。

目標 5 (生涯教育)

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。

2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。

③ 関連施設としての経験目標

日帰り手術の麻酔：手術適応、術前および術後の患者説明、術後管理、術後鎮痛法を学ぶ。

心臓外科手術の麻酔は、福岡病院とは異なる術者の手術と麻酔指導医からの指導を受けることも良い経験となる。

・心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む) 20 症例

松原徳洲会病院研修期間中は、日帰り手術の麻酔、胸部外科手術以外の手術麻酔、集中治療についても担当し、十分な臨床経験を増やすものとする。

大隅鹿屋病院（関連研修施設）研修カリキュラム到達目標

・施設の特徴

鹿児島県大隅半島にある病院で、都市部とは違う症例の経験ができる。福岡徳洲会病院の研修で不足する可能性がある胸部外科手術症例を経験できる。

① 一般目標

種々の病態変化を生じる周術期医療において、安全で質の高い患者管理が行える知識と技術を習得することを目指す。手術麻酔のみならず、集中治療、ペインクリニックなども集学的に学ぶことにより、患者中心の医療が実践できる専門医を育成する。

② 個別目標

目標1（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1) 総論：

麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している。

麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，感染対策，環境整備について理解し，実践できる。JCIの基本的考えを理解する。

2) 生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。

- j) 自律神経系
- k) 中枢神経系
- l) 神経筋接合部
- m) 呼吸
- n) 循環
- o) 肝臓
- p) 腎臓
- q) 酸塩基平衡，電解質
- r) 栄養

3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している。

- f) 吸入麻酔薬

- g) 静脈麻酔薬
 - h) オピオイド
 - i) 筋弛緩薬
 - j) 局所麻酔薬
- 4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる
- 1. 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している．
 - 2. 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる．
 - 3. 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる．
 - 4. 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる．
 - 5. 硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
 - 6. 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる．
- 5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる．
- k) 腹部外科
 - l) 腹腔鏡下手術
 - m) 胸部外科
 - n) 心臓血管外科
 - o) 外傷患者
 - p) 泌尿器科
 - q) 眼科
 - r) 耳鼻咽喉科
 - s) レーザー手術
 - t) 口腔外科
 - u) 手術室以外での麻酔

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し、臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について、定められたコース目標に到達している。

- s) 血管確保・血液採取
- t) 気道管理
- u) モニタリング
- v) 治療手技
- w) 心肺蘇生法
- x) 麻酔器点検および使用
- y) 脊髄くも膜下麻酔
- z) 鎮痛法および鎮静薬
- aa) 感染予防

目標3 (マネジメント)

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命を助けることができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 (医療倫理, 医療安全)

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接

しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標 5（生涯教育）

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③ 関連施設としての経験目標

福岡徳洲会病院麻酔科専門医研修プログラムのうち、責任基幹施設で症例数の少ない胸部外科手術の経験を積むことを目標とする。

・胸部外科手術の麻酔

10 症例

大隅鹿屋病院研修期間中は、胸部外科手術以外の症例についても担当し、指導を受けるものとする。